令和７年度　全国学力・学習状況調査の実施結果について（概要）

令和７年４月に実施された全国学力・学習状況調査の結果が、文部科学省より公表されました。本市立学校では、小学校３７校２，８７３人、中学校１８校２，５９９人が調査を受けました。実施結果の概要について以下にまとめました。なお、調査結果は学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面です。

○調査目的

◇義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握･分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
◇学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
◇教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

○調査対象　国・公・私立学校の小学校第６学年、中学校第３学年　原則として全児童生徒

○調査内容

◇教科に関する調査（国語、算数･数学、理科）※CBT 調査の導入（中学校理科）

①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識･技能等
②知識･技能を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な問題解決のための構想を立て実践し評価･改善する力等

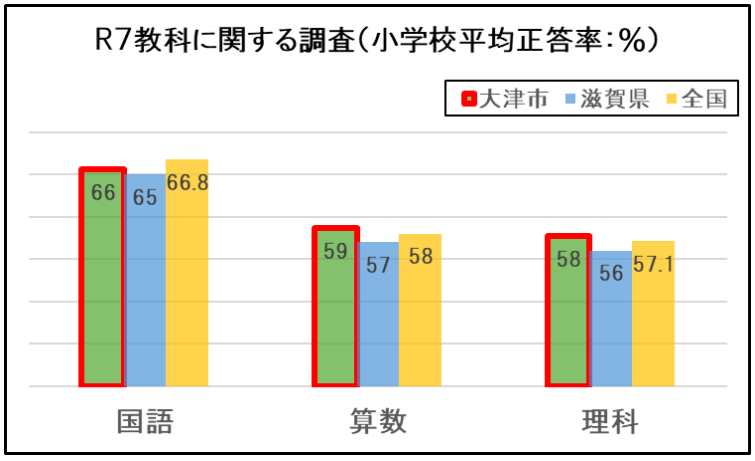
◇生活習慣や学習環境等に関する質問調査

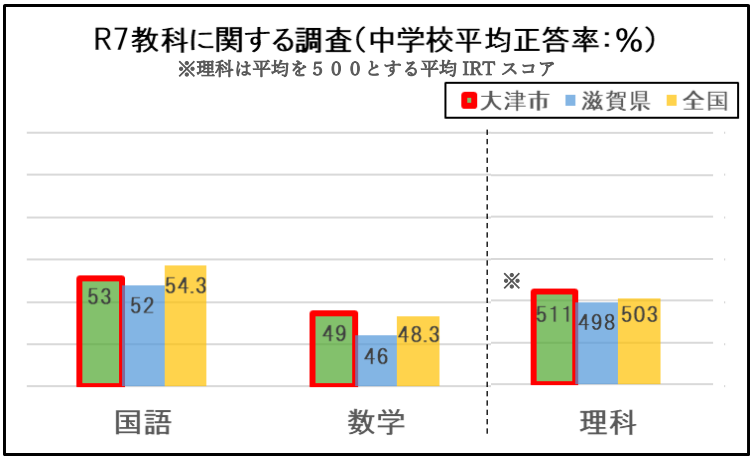
児童生徒に対する調査
学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

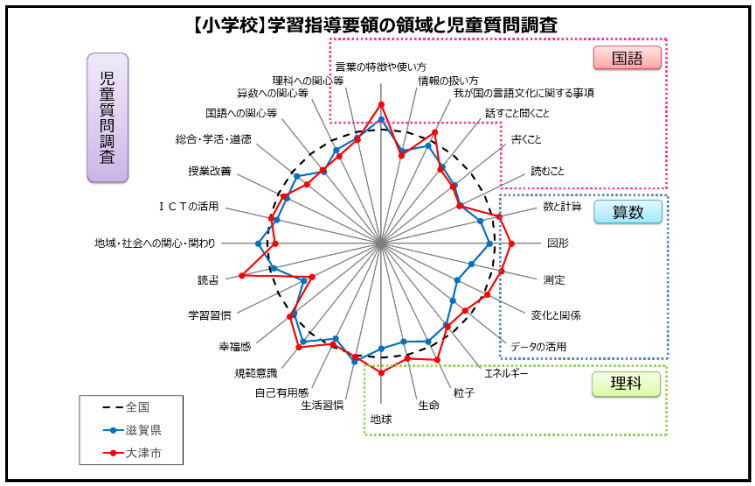
学校に対する調査
指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備状況等に関する調査

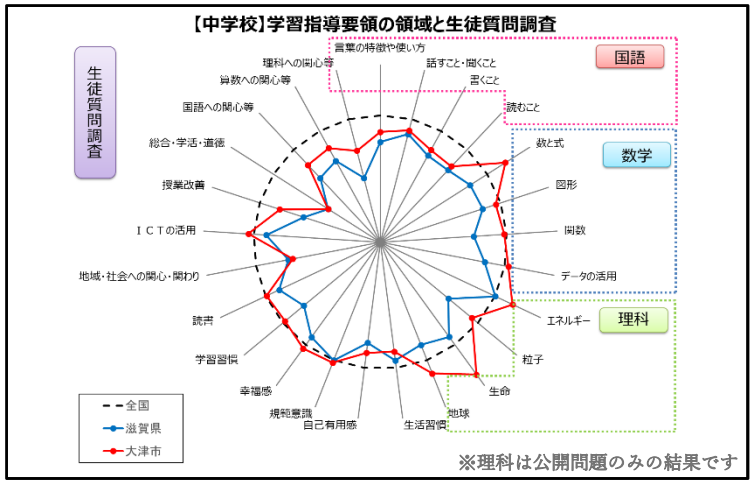
○調査結果の概要

◇教科（領域）ごとの結果と概要









※上の２つの図中の黒破線は全国平均値を示しています

●小学校国語・算数・理科、中学校国語・数学・理科は、いずれも滋賀県の平均正答率及び平均 IRT スコアを上回りました。
●小学校算数・理科、中学校数学・理科は、全国の平均正答率及び平均 IRT スコアを上回りました。

◇児童生徒質問調査の結果概要

【全国平均と比較して高い結果となった主な項目】

（小学校・中学校共通）

「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できる」
「友達関係に満足している」　「普段の生活の中で幸せな気持ちになることがある」
「学習塾や家庭教師の先生に教わっている」
「これまでの生活の中で、自然の中で遊ぶことや自然観察をすることがあった」
「ＰＣ・タブレットなどのＩＣＴ機器で文章を作成する（文字、コメントを書くなど）ことができる」
「インターネットを使って情報を収集（検索、調べるなど）することができる」

（小学校）

「学校に行くのは楽しい」　「読書が好き」　「自分には、よいところがあると思う」
「授業でＰＣ・タブレットなどのＩＣＴ機器を活用し、分からないことがあった時に、すぐ調べることができる」

（中学校）

「国語の授業で、先生は、良いところや、前よりもよくなったところはどこかを伝えてくれる」
「ＰＣ・タブレットなどのＩＣＴ機器を活用し、情報を整理する（図、表、グラフなどを使って）ことができる」

【全国平均と比較して低い結果となった主な項目】

（小学校・中学校共通）

「国語の勉強が好き」「算数（数学）の勉強が好き」「国語の勉強が得意」
「算数（数学）の授業で、どのように考えたのかについて説明する活動をよく行っている」
「総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいる」
「ＰＣ・タブレットなどのＩＣＴ機器を活用し、学校のプレゼンテーションを作成することができる」
「土曜日や日曜日など学校が休みの日に、１日当たり１時間以上勉強をしている割合」

（小学校）

「学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）に、１日当たり１時間以上勉強をしている割合」
「国語の授業で、先生は、学習のうまくできていないところはどこかを伝え、どうしたらうまくできるようになるかを教えてくれる」

（中学校）

「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う」
「学級生活をよりよくするために学級活動で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めている」
「国語の授業で、文章の構成や展開に、どのような効果があるのかについて、根拠を明確にして考えている」
「理科の授業では、自分の予想（仮説）をもとに観察や実験の計画を立てている」

【肯定的割合が高まった主な項目】※R5→R7での変化

（小学校・中学校共通）

「先生はよいところを認めてくれている」（小+2.6 中+5.7）「人の役に立つ人間になりたいと思う」（小+0.3 中+1.8）
「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できる」（小+2.3 中+8.3）
「自分にはよいところがあると思う」（小+2.4 中+9.1）　「学校に行くのは楽しいと思う」（小+1.0 中+6.6）

◇調査結果の分析と今後の主な手立て

・児童生徒質問調査の結果から、「国語の勉強が好き」「算数（数学）の勉強が好き」といった教科への関心に関する項目を含め、「算数（数学）の授業で、どのように考えたのかについて説明する活動をよく行っている」など、各教科における授業改善に関する項目全般に対して課題が見られました。この結果を踏まえ、本市として各教科の授業改善を一層進めていく必要があります。より具体的で効果的な授業改善を図るためには、学校組織として、全教職員が一体となって取り組むことが求められます。授業改善の必要性についての意識を学校全体で高めるとともに、より良い授業の在り方についての視点を研修会の実施や指導主事による訪問を通じて共有し、子どもたちが「学ぶ楽しさ」を実感できる主体的な学びにつながる授業づくりを目指します。

・「自分で課題を立てて調べたことを発表する」「学級での話し合いを生かして課題を解決する」といった総合的な学習の時間や学級活動等に関する項目も、小学校・中学校ともに課題が見られました。体験的活動や総合的な学習の時間においては、各活動の目的や意図を明確にし、子どもたちが自己決定する機会を増やすことで、子どもたちが主体的に課題に向き合い、解決していけるよう、見直し・改善を図ります。本市の取組「学校夢づくりプロジェクト」等を通して、子どもの豊かな発想をもとに学校・地域が協働することで、地域への愛着を醸成するとともに、特色ある教育活動を推進します。

・「先生はよいところを認めてくれている」「困りごとや不安がある時に、先生や学校の大人にいつでも相談できる」といった本市がこれまで大切にしてきた子どもの自尊感情の育成や安心した学校生活につながる項目では、肯定的な割合の向上が見られました。この強みを活かし、今後も、学びの土台である子どもたち一人ひとりが「自分も大切にされている」と実感できる、安心して学べる学校環境づくりに向け、地域・家庭と連携しながらきめ細やかな支援を行っていきます。